

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (36) : 9-18, 2009

ヌートリアを瀬戸内海の本島・手島・小手島 (香川県丸亀市),  
および小豆島・豊島 (香川県小豆郡) で捕獲・目撃

金子之史

〒762-0017 坂出市高屋町502-4

川口敏

〒769-2102 さぬき市鴨庄994-6

Collecting or observation of the nutria (*Myocaster coypus*) on Honjima,  
Teshima, Oteshima, Shyodoshima and Teshima (Marugame City,  
or Shyozu-gun, Kagawa Prefecture), Seto Inland Sea, Japan

**Yukibumi Kaneko**, 502-4, Takaya-cho, Sakaide City, Kagawa Prefecture, 762-0017, Japan.

**Satoshi Kawaguchi**, 994-6, Kamoshyo, Sanuki City, Kagawa Prefecture, 769-2102, Japan

Abstract : A total number of 35 specimens of *Myocaster coypus* were collected from Honjima, Teshima, and Oteshima (Marugame City), and Shyodoshima and Teshima (Shyozu-gun), Kagawa Prefecture. These islands are distributed in the Seto Inland Sea. Among 10 females, four ones were pregnant with four to ten embryos in their uterus collected in June, September, October, and November. Among 15 males, eight ones had sexually active testes collected in September, December, January and February. There has been no information of the nutria on the breeding or the living on these islands and/or Shikoku. The nutria has been killed more than 1500 individuals as harmful animals since 1998 in Okayama Prefecture. Some of these nutrias would migrate or disperse through the sea from Okayama Prefecture, where the nutria is abun-

dant around the mouth of Rivers Takahashi, Asahi, and Yoshii.

はじめに

ヌートリア *Myocaster coypus* の原産地はチリ・アルゼンチンからボリビア南部・パラグアイ・ブラジル南部であり、日本には1907年に上野動物園に初めて輸入されたという (Woods et al., 1992; 金子, 2005)。その後、1939~45年まで毛皮のため北海道から福岡県までの各地で養殖された (三島, 1942)。戦後これらが各地で野生化し、現在関西以西を中心としてその分布を広げており、1968年度の林野庁鳥獣関係統計によると、有害鳥獣駆除で捕獲された府県は多い順に岡山県、神奈川県、京都府、千葉県、石川県、広島県、三重

県、山梨県、和歌山県、愛媛県となる(池田・高野, 1970)。さらに、2003年度の環境省の有害鳥獣駆除は、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、島根県、鳥取県、岡山県、および広島県で実施されているという(曾根ほか, 2006)。2005年には環境省の特定外来生物に指定された。

香川県では、第二次世界大戦終了(1945年)以前にはヌートリアを養殖していたことがあり、1942年1月には全国で4番目の128頭の飼育がされていた(三島, 1942)。この時の具体的な状況についての資料は他に残っていない。約50年後に、香川県における野生ヌートリア死亡個体(雄)が1990年9月、三豊郡高瀬町麻小学校前の道路上で発見された(本多ほか, 1992)。その後、香川県におけるヌートリアに関しては、直島町での捕獲が香川県の2005年度の狩猟統計(平成17年度)(森井, 2007)にあるのみである。

ところで、2007年8月31日に丸亀市本島でヌートリアが発見された。その後、2009年2月までに、瀬戸内海に浮かぶ香川県の他の島嶼部でもヌートリアが続々と捕獲された。そこで、筆者たちの手元に届けられたヌートリアの捕獲や目撃情報の状況を報告し、あわせて外来生物ヌートリアの海上分散の可能性を指摘してみたい。なお、捕獲個体の形態的な分析は稿を改めることとする。

### 材料と方法

捕獲されたヌートリアは捕獲地、捕獲年月日の資料とともに、標本番号を付し死後冷凍保存された。解凍後外部計測をし、頭骨のみを取り出し骨格標本とした。内臓は剖検した。

### 結 果

2007年8月31日に香川県丸亀市本島でヌートリアの死亡個体(骨格のみ)が発掘された。本島は丸亀港北方約9kmにある面積6.75

km<sup>2</sup>、最高標高203.9m(小坂山)であり、ほぼ長方形の形で周囲約19kmある。農耕地は、東南の方向に広がる北浦が一番広く、ついで西北海岸にある大浦にみられる。フェリー乗り場の北側(字名:泊)に旧アイランダーホテル本島の跡地があり、隣接してその北側に半径250mの旧クルマエビ養殖場池が3池ある。それぞれの池は三角形のそれぞれの角の位置にあり、以降では北池、東池、および西池と称する。ヌートリアの死体は西池西側にある水路から約15m西にある四国電力本島営業所より東南約10mの距離で一部白骨化して発見された。住民がこの死亡個体を発見し、その後に意図的に埋めたものをその後掘り出した。頭骨からヌートリアであることを筆者の1人(金子)が確認した。

その後、2007年10月9日においても前香川県みどり保全課の福田裕之氏ほか、旧クルマエビ養殖場周辺において巣穴や糞を発見した。すなわち、西池の堤ではヌートリアの掘ったと思われる穴や足跡が、さらに東池と西池の境にある堤でも穴や糞が発見された。また、本島中学校南側の畑の作物が掘り荒らされている状況がみられた。その時の聞き込みでは、住民によって8月頃に本島中学校プール北側でもヌートリアらしき動物が目撃され、10月初旬に北池の北にある水門付近で水路にはいるのが目撃された。また、時期は不明であるが、本島中学校教諭がヌートリアを堤の西側の水路で目撃していたという。さらに、10月16日午後8時40分頃に北池北側にある山根児童館より北の交差点でヌートリアを住民が目撃したという連絡も県側に伝えられた。

香川県は2008年6月にヌートリアの有害鳥獣申請をおこない、ヌートリアの駆除をおこない始めた。箱ワナを用いた駆除捕獲の結果、2009年2月までに筆者たちの手元に得られたヌートリアは計35頭であった。捕獲した採集月でみると2008年6月4頭、8月3頭、

表1. 香川県島嶼部（瀬戸内海）で捕獲されたヌートリアの月別頭数.

年 月		2008年							2009年		計
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
本島（丸亀市）	雄	3		2	1				1*		7
	雌	1*			1				1		3
手島（丸亀市）	雄				3*	1	2	1*	2	4****	13
	雌				2*	1*	3*			2**	8
小手島（丸亀市）	雄										0
	雌			1							1
小豆島（小豆郡）	雄							1	1*		2
	雌							1			1
計	雄	3	0	2	4*	1	2	2*	4**	4****	22
	雌	1*	0	1	3*	1*	3*	1	1	2**	13

\*:雄は副精巢尾部が管状構造を示し、雌は胎児が肉眼でみえる妊娠個体の、それぞれ1頭を示す。

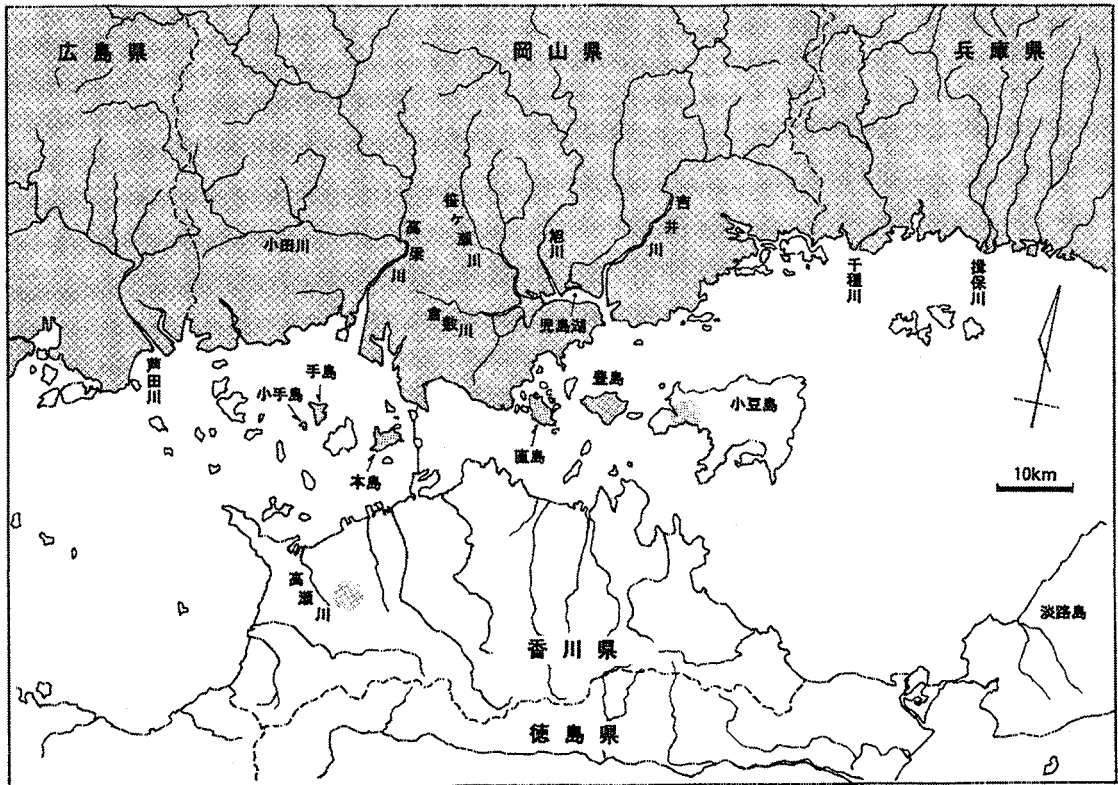


図1. ヌートリアが瀬戸内海（香川県側）で捕獲・目撃された島嶼部、小豆島、本島、手島、小手島で捕獲され、また豊島では1頭死亡個体が目撃された。ハッチを付けた部分はヌートリアが生息あるいは過去に生息の情報が得られた範囲や地点を示す（香川県側は本多ほか、1992；森井，2007）。

9月7頭, 10月2頭, 11月5頭, 12月3頭, 2009年1月5頭, および2月6頭の計35頭であった(表1)。なお, 筆者たちの手元に届けられた死亡個体以外にも捕獲個体はあったがその実態は不明である。捕獲個体を外部計測し, 内部生殖器などの特徴を調べたが, 捕獲総個体数35頭中, 雄22頭, 雌13頭であった。そのうち妊娠が確認された6頭の雌の胎児数は4~10であり, 6月, 9月, 10月, 11月(それぞれ1頭), および2月(2頭)に採集された。副精巣尾部が管状を示し性的成熟に達している8頭の雄は9月, 12月(それぞれ1頭), 1月(2頭)と2月(4頭)に採集された。

これらのヌートリアの捕獲場所を各島嶼別に述べる(図1)。香川県丸亀市の本島ではフェリー乗り場付近の泊, 東部の農耕地の広がる北浦, および北浦の西部で山麓に民家が並ぶ山根で計8頭が捕獲された。つぎに, 丸亀市の手島は丸亀港北西25kmにあり, 平面的に見ると凹型の島で凹んだ部分に港がある。面積3.84km<sup>2</sup>, 最高標高217.2m(東方山)で周囲は約11kmある。港から西南方向の中央部に鞍部がありわずかに農地がみられる。そこに捕獲箱が設置され, 計12頭が捕獲された。また, 丸亀市の小手島は手島の南西1.5kmに浮かぶ直角三角形に近い形をした島である。面積0.59km<sup>2</sup>, 最高標高95.1mの小さい島である。捕獲箱は南側の小手島小学校・中学校周辺部の丘陵部の東と西の畑地に設置した。捕獲は小学校・中学校から西500mほどの距離の場所で, 計1頭捕獲された。

香川県香川郡の小豆島は面積152.45km<sup>2</sup>, 最高標高816.7mで瀬戸内海では淡路島に次ぐ面積の広い島である。土庄町北山にある土庄高校周辺は伝法川による小さな沖積平野が広がっている。土庄高校の南, 伝法川との間の水田地帯で計2頭が捕獲された。また, 香川県香川郡の豊島は高松の北15km, 小豆島の西4kmにある菱形をした島である。面積は14.61

km<sup>2</sup>, 最高標高339.8m(壇山)で周囲は20.51kmある。豊島では死体が1頭発見された。2008年8月15日午前10時頃であり(三井孝氏), 発見場所は甲生(南海岸)の西側を流れる甲生川の途中(標高27m)のところで死体を発見した。写真撮影がおこなわれ, 全身や頭部(黄色のエナメル質の切歯)からヌートリアと筆者の1人(金子)が同定した。

## 考 察

これらの島嶼部全体でみると, 肉眼で胎児を持った妊娠雌が6月, 9月, 10月, 11月, および2月に採集され, 副精巣尾部が管状を示し性的成熟に達している雄が9月, 12月, 1月および2月に採集されたことから, 春と秋から冬にかけてヌートリアの繁殖活動がおこなわれていると推測される。

ヌートリアは筆者たちの手元にすべての捕獲個体が集められたわけではないが, 面積6.75km<sup>2</sup>の本島で計10頭の捕獲に対して, 面積3.84km<sup>2</sup>の手島で計21頭の捕獲があったことは非常に興味深い。手島は鞍部の200m×200m程度のわずかな畑地で小さな小川しかなく, 外部から絶えず侵入していることが考えられる。

ここで, ヌートリアの日本全国における分布の状態をみよう。株式会社野生物保護管理事務所(2007)は環境省の鳥獣統計から全国の捕獲数の分布図を年代別に示している。しかし, この図は各県における年代の変化が読み取りにくいので, 一覧表に作成し直した(表2)。この結果, 全国では関東地方の茨城県, 栃木県, 群馬県, 千葉県, および神奈川県などで近年は100頭未満という数字がみられる。これに対して, 中部地方では岐阜県, 愛知県, 三重県では100頭未満および100頭から1000頭という数字が近年の傾向である。さらに近畿・中国地方では, 岡山県, 兵庫県, 鳥取県, 島根県, 京都府において100頭から1000頭未満の捕獲がされている。この中では岡山

表2. 1990年代までの日本国内県別ヌートリア捕獲頭数  
(環境省鳥獣統計より作成した株式会社野生生物保護管理事務所, 2007を改変)

都道府県	1960年 以前	1970年 代	1980年 代	1990年 代	都道府県	1960年 以前	1970年 代	1980年 代	1990年 代
1 北海道			a		27 滋賀		b	a	
2 青森					28 京都	b	c	c	c
3 岩手			b		29 大阪		a		
4 秋田					30 兵庫	c	b	c	d
5 山形			a		31 岡山	d	d	d	d
6 宮城					32 広島	b	c	c	
7 福島					33 鳥取		a	b	c
8 新潟					34 島根				c
9 茨城	a		a	a	35 山口				
10 栃木			b	b	36 徳島		a	a	a
11 群馬	a	a		c	37 香川	a			
12 埼玉		a	b		38 愛媛	a	a	a	
13 千葉	c	b	a	a	39 高知	c	a		a
14 東京	c	b			40 福岡	a			a
15 神奈川	b	b	a	a	41 大分			b	
16 静岡	a		a		42 熊本	a			a
17 山梨	a				43 鹿児島				a
18 長野	c				44 佐賀			a	
19 富山					45 長崎				
20 石川	c				46 宮崎				
21 福井				a	47 沖縄				
22 岐阜		a	d	d					
23 愛知		a	c	d					
24 三重	a	b	c	c					
25 奈良	a		a						
26 和歌山	a			a					

a: 捕獲頭数10頭未満, b: 捕獲頭数10頭以上100頭未満, c: 捕獲頭数100頭以上1000頭未満, d: 捕獲頭数1000頭以上

県は1960年以前からいままでも1000頭以上の捕獲がされている。しかし、中国地方のうち山口県では報告がない。また、四国や九州は散発的であり捕獲数も10頭未満である。

では、兵庫県と山口県を除いた中国地方の状況を県別により詳しく見てみよう。ここでの資料は文献のみではなく、インターネットのホームページの記事も参考にした。その方がより現在の情報を入手できるからである。

兵庫県では、1970年代までは篠山市周辺と姫路市、相生市、稲美町の数地点での確認であったという。1985年以降加古川水系、揖保

川水系に広がり、県北部でも多く確認されるようになった(2003年度までの調査:兵庫県人と自然の博物館, 2005)。しかし、丹波地域北西部と淡路島にはまだ広がっていない、と記されている。また、兵庫県森林動物研究センターの「鳥獣による農業被害調査:ヌートリア」のホームページには兵庫県内の分布が侵入時期および農地・集落周辺への出没増減(2006年度・2007年度)として掲載されている。この分布図をみると兵庫県内にほぼくまなくヌートリアは分布している。その中でも強いて探し出せば鳥取県との県境に位置し日本海の浜坂に河口をもつ岸田川と明石以東の

六甲山地における分布密度が低い。

鳥取県では、「週間散歩の途中」のホームページ(2009/01/29)によると、鳥取県西部の日野川流域、中海干拓地、宍道湖での目撃情報があるという。鳥取県森林保全課の話として「1990年頃から岡山県境に近い日野川上流から被害が出始め米子市まで広がった。もともといなかった動物で中国山地を越えたという説が有力」と記されている。「日本海新聞」のホームページ(2008/01/16)では、鳥取市吉方町袋川で捕獲されたという。その中で鳥取市林務水産課の話を記し、以前には鳥取県西部に頻繁に出没していたが徐々に東に広げ県東部旧青谷町周辺には2002年に被害が出たという。2007年春と夏には旧市部郊外で水田被害があるという。鳥取県生産振興課主催(2008)「鳥獣・里山セミナー：野生動物と里山集落」のホームページでは、ヌートリアの有害と狩猟鳥獣の捕獲合計は2000～2001年度に100頭未満であったが、2002年度からは100～400頭を推移し、2008年度では870頭にまで増加している。

島根県では、1990年に初めて島根県東部の松江市で5頭が捕獲され、次第に分布域を拡大して島根西端部を除いてほぼ全域に広がったという。狩猟と有害鳥獣捕獲では2006年度では465頭に達し、松江市では157頭が捕獲されたという(金森ほか, 2008)。2001～2003年度の調査で出雲市平田地域のため池にヌートリアの出現が報告されている((財)ホシザキグリーン財団, 2006)。また、「山陰中央新報」のホームページ(2008/07/28)の「山陰の野生動物8ヌートリア」では、島根県鳥獣対策室によると「1990年に初確認され、現在では県東部と県中部に生息域が拡大している。現在では年間100数十頭が捕獲されている」という。

広島県では、山県郡、広島市、三次市、庄原市、双三郡、神石郡、世羅郡、御調郡、沼隈郡、高田郡、比和郡の河川周辺に分布する

という(広島哺乳類談話会, 2000)。広島県の有害鳥獣駆除の結果、広島市安佐北区でのみ捕獲され2004年度では13頭、2005年度では10頭捕獲されている。また朝日(1980)は、芦田川下流の福山市箕島町(引用者注:箕島町は実際は芦田川の河口)で1948年頃に養殖が始まり2～3年続いた、と述べている。福山市経済環境局経済部農政課(2008)「福山市鳥獣被害防止計画(平成20年度)」においてヌートリアの被害面積は2008年度0.1haで芦田川沿いの水田の生育期と収穫期に被害が現れているという。市内各所の池や川でも目撃され生息域が拡大しているという(以上はいずれもホームページ)。また、「中国新聞メディアクラブ(経済ニュース)」のホームページ(2009/01/29)によれば、2003/07/22の休眠農協の話の中に、かつてはヌートリアの増産をめざした「広島ヌートリア畜産農協(府中町)」が存続していたと書かれていた。

では岡山県の状況はどうであろうか。池田・高野(1970)は岡山市近郊のヌートリアによる農作物被害の状況を述べている。さらに、旭川・笹ヶ瀬川・倉敷川・吉井川が「開いた扇の骨」状に流れ、それらが児島湖という入江に注いでおり、人工や天然の小河川、堀、水路をもちそこにヨシ他の水草が密生しているため、ヌートリアにとっての採食場、繁殖場、逃避場として恵まれた環境条件にあると推測している。しかし、近年の河川汚染に伴う生息環境の悪化によって自然減少をたどるのではないかと述べている。また、三浦(1976)はアンケート調査などにより児島湾干拓地から旭川、吉井川、小田川にそってヌートリアの分布が拡大していることを示した。三浦(1976)は1973年までの年次変化をやはり県内の行政単位別の分布地図で表している。しかし、行政単位別の年次変化を分布図によって読み取るのには不便である。そこで、水系別に行政単位をそろえ直しそこに年次変化を示すように書き直してみた(表3)。

表3. 岡山県内行政単位別にみたヌートリア捕獲密度の経年変化(1964~73年) (三浦, 1976を改変).

水系別		1964-65年	1966-67年	1968-69年	1970-71年	1972-73年	水系別	1964-65年	1966-67年	1968-69年	1970-71年	1972-73年
1	1 倉敷市	c	c	c	c	c	46	1 牛窓町				
2	2 清音村						47	2 邑久町	c		d	c
3	3 船穂町						48	3 日生町				
4	4 真備町	d	d	d	c	e	49	4 備前市				
5	5 総社市				a		50	5 長船町	c	d	d	d
6	6 高梁市						51	6 瀬戸町	b	c	b	c
7	7 金光町					b	52	7 吉永町				a
8	8 寄島町						53	8 和気町	a		a	b
9	9 鴨方町						54	9 熊山町		c	b	b
10	10 里庄町						55	10 山陽町	d	e	d	e
11	11 笠岡市						56	11 英田町				
12	12 矢掛町					c	57	12 佐伯町			b	b
13	13 井原町			b		b	58	13 赤坂町	c	d	c	c
14	14 美星町					a	59	14 吉井町				b
15	15 芳井町			b			60	15 久米南町	c	c	b	c
16	16 川上町						61	16 柵原町				a
17	17 成羽町						62	17 中央町			a	b
18	18 備中町						63	18 作東町				b
19	19 哲多町						64	19 美作町				
20	20 哲西町						65	20 大原町				
21	21 新見市						66	21 東粟倉村				
22	22 大佐町						67	22 西粟倉村				
23	23 神郷町						68	23 勝田町				
24	1 とうじ町						69	24 奈義町				
25	2 玉野市	a		b		c	70	25 勝央町				
26	3 灘崎町	e	e	d	e	e	71	26 津山市	a		a	b
27	4 藤田村	e	f	f	f	f	72	27 久米町		b	c	c
28	5 岡山市	d	d	d	e	e	73	28 鏡野町				c
29	6 山手町	b				d	74	29 奥津町				
30	1 御津町	c	c	c	c	c	75	30 中和村				
31	2 建部町	b	c	b	b	b	76	31 上斎原村				
32	3 加茂川町		b	a	c	c	77	32 勝北町				
33	4 賀陽町					b	78	33 加茂町				b
34	5 旭町			b	c	c	79	34 阿波村				
35	6 有漢町											
36	7 落合町		b	c	b	b						
37	8 北房町	b				c						
38	9 久世町				d	c						
39	10 勝山町		a									
40	11 富村											
41	12 湯原町			a								
42	13 美甘村											
43	14 八束村											
44	15 川上村											
45	16 新庄村											

a:密度 (頭数/km<sup>2</sup>)~0.02, b:密度 (頭数/km<sup>2</sup>)~0.10, c:密度 (頭数/km<sup>2</sup>)~0.50,  
d:密度 (頭数/km<sup>2</sup>)~2.50, e:密度 (頭数/km<sup>2</sup>)~12.40, f:密度 (頭数/km<sup>2</sup>)>12.50

その結果、高梁川水系では倉敷市と真備町が多く、篠ヶ瀬川と倉敷川水系では藤田村、岡山市、灘崎町が多い。藤田村の捕獲密度は1 km<sup>2</sup>あたり12.5頭を越えている。さらに、旭川水系では御津町、加茂川町、北房町、久世町といった中流域に多い。最後に吉井川水系では長船町、熊山町、山陽町、赤坂町といった下流域が多い。なお、小田川水系では真備町は高梁川との関係が考えられるが、1968年から途中の矢掛町がなく井原町に出現しているのは、西隣の芦田川から影響が推測される。というのは、井原町地域では両河川水系の分水嶺は地形的な障害を認められないほど低く緩やかだからである。また、吉井川水系の津山市や久米町の増加も吉井川水系から移動・分散したか、低く緩やかな分水嶺をはさんだ落合町や久世町からの移動・分散とも考えられる。

さらに、「岡山県環境白書」(ホームページ)によれば、1頭当たり500円以内の補助金を出しているヌートリア捕獲頭数は、1994年度では1705頭、1995年度では1637頭、1996年度では1686頭、1997年度では1876頭、1998年度では1574頭、1999年度では1477頭、2000年度では1054頭、2001年では1612頭、2002年では1639頭、2003年度では1722頭、2004年度では1994頭、および2005年度では1503頭捕獲されている。したがって、2000年度を除いてほぼ1500頭以上が捕獲されているが一向に減少していないことが明らかである。これらは補助金申請をした頭数であるから実際の捕獲数はもっと多いと推測される。また、2004・2005年には西部の矢掛町や笠岡市で交通事故死亡個体が発見されており(川口・江木, 2007)、分散個体が陸上部を移動していることは香川県の交通事故死体の例も併せて(本多ほか, 1992)十分に考えられる。

いっぽう、ヌートリアが海上部を分散することあるのであろうか。現在まで、わかっている情報では、河川は2年間で120kmの分散が

確認されており(Aliev, 1968)、また汽水域を3.2km移動したのが最長距離であり(Linscombe et al., 1981)、国内国外を含めて海上部での移動の報告は知られていない(Woods et al., 1992)。

今回、瀬戸内海のなかで岡山に面する香川県側のほとんどの島嶼部、すなわち東から小豆島、豊島、本島、手島、小手島で捕獲され、また直島での捕獲記録(2007年度香川県の狩猟統計、未発表):森井(2007)があった。さらに、これらの島では戦前および戦後にヌートリアを飼育したという記録はない。したがって、一番考えやすいのが近くから分散した個体ではないかということである。上述したように岡山県は捕獲頭数が1994~2005年度で1500頭を越えることから、岡山県の高梁川、旭川、および吉井川からの侵入の可能性が高いであろう。岡山県の高梁川河口から手島までの距離はおよそ20km、旭川河口から豊島までが約12km、土庄までは約18kmの距離をヌートリアは自力遊泳かあるいは何かの浮遊物を使ってたどり着いたという推測が可能である。より厳密には遺伝子分析的手法によってこの課題を検討することが必要であろう。

なお、本多ほか(1992)では、香川県で発見された野生個体の最初の報告であったが、この由来についてはなにも議論されていない。この死亡個体が発見された高瀬川周辺は発見当時護岸がコンクリート化され、ヌートリアが継続して住める環境状況とは考えられない。したがって、もしかしたらこの死亡個体も岡山県由来の瀬戸内海を渡ってきた個体であったのかもしれない。

以上のことから、もし香川県のこれらのヌートリアが海上を移動したのであれば、海上の移動距離としても最長であることになる。また、ヌートリアの多量の分散が海上部でもおこなわれるのであれば、島嶼部を中継地点としてさらに四国本島側に分散してくる危険性も考えられる。早急にヌートリア防除



の対策を講じないと、四国側への影響も甚大となるであろう。

### 謝 辞

ヌートリアの死亡個体の提供をして頂いた、香川県みどり保全課総務・野生生物グループであった福田裕之氏、また現在総務・野生生物グループの高尾勇一郎氏および塩谷健二氏、丸亀市農林水産課の大川隆弘氏、山口好則氏、および和泉千代子氏、ヌートリアの捕獲をしている香川県猟友会丸亀支部支部長の岩崎壽義氏、手島での捕獲に協力頂いた地元の高田正明氏、藤原当正氏、および小豆郡土庄町農林水産課の西崎晃尚氏はじめ多数の関係された方々に対して深く謝意を表す。また、文献をご恵送頂いた三浦慎悟、および佐野明氏に謝意を表す。

### 摘 要

- 1) 2007年8月31日に香川県丸亀市本島でヌートリアの死亡個体(骨格のみ)が発掘された。
- 2) 2008年6月にヌートリアの有害鳥獣申請後、箱ワナを用いた駆除捕獲の結果、2009年2月までに岡山に面する香川県側のほとんどの島嶼部、すなわち小豆島、本島、手島、小手島で捕獲され、計35頭であった。また、豊島では1頭死亡個体が目撃された。
- 3) 捕獲した採集月でみると2008年6月4頭、8月3頭、9月7頭、10月2頭、11月5頭、12月3頭、2009年1月5頭、計35頭であった。捕獲総個体中、雄22頭、雌13頭(うち妊娠が確認されたのは6頭)であった。
- 4) 肉眼で胎児を持った妊娠雌の出現月、および副精巣尾部が管状を示し性的成熟に達している雄の出現月から推測すると、ヌートリアの繁殖活動は春と、秋から冬にかけておこなわれていると推測される。
- 5) 手島では鞍部の200m×200m程度のわずかな畑地で小さな小川しかなく、計21頭が捕獲されたということは、外部から絶えず侵入していることが考えられる。
- 6) 1994～2005年度までの「岡山県環境白書」ではほぼ1500頭以上が捕獲され、上述の捕獲・目撃された島嶼部以外に直島での捕獲記録もあることから、これらのヌートリアは自力遊泳かあるいは何かの浮遊物を使って今回捕獲・目撃された島嶼部へたどり着いたという推測が可能である。

### 引用文献

- Aliev, F. F. 1968. Contribution to the study of nutria-migrations, *Myocastor coypus* (Molina, 1782). *Säugetierkunde. Mitt.*, 16: 301-303. (Woods et al., 1992による)
- 鳥獣・里山セミナー：野生動物と里山集落。2008. 鳥取県農業共済組合連合会  
[http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/258826/choju\\_satoyama\\_seminar08.pdf](http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/258826/choju_satoyama_seminar08.pdf)
- 中国新聞メディアクラブ「経済ニュース」のホームページ。  
<http://www.media-club.jp/media/news/backnumber/enews0725.html>
- 福山市経済環境局経済部農政課。2008. 「福山市鳥獣被害防止計画(平成20年度)」  
<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/nousei/nourinsuisan/tyozyuhigaiboushikeikaku.pdf>
- 広島県哺乳類談話会, 編。2000. 広島県の哺乳類。中国新聞社, 広島。
- 本多宏之・金子之史・真鍋哲也。1992. 香川県三豊市高瀬町で発見されたヌートリア。香川生物, (19): 137-138.
- 兵庫県人と自然の博物館。2005. 兵庫県の外来生物対策にむけた提案  
[http://hitohaku.jp/publications/gairaihoukoku/p.33\\_36.pdf](http://hitohaku.jp/publications/gairaihoukoku/p.33_36.pdf)
- 兵庫県森林動物研究センター「鳥獣による農業被害調査：ヌートリア」ホームページ。

- <http://www.wmi-hyogo.jp/higai/zukan/nutoria.htm>
- 池田真次郎・高野肇. 1970. 農作物を食害するヌートリア. 植物防疫, 24:295-296 (口絵写真1葉).
- 株式会社野生動物保護管理事務所. 2007. 平成18年度ヌートリア生息状況調査報告書. 大阪.  
<http://www.pref.osaka.jp/doubutu/04yaseidoubutu/19nutoria/nutoria01/PDF2/houkoku.pdf>
- 金森弘樹・澤田誠吾・竹下幸広. 2008. 島根県における外来哺乳類の現況—ヌートリア, アライグマおよびハクビシンの分布と捕獲—. 200年度日本哺乳類学会プログラム・講演要旨集 (山口大会): 137.
- 金子之史. 2008. ヌートリア. 阿部 永・石井信之・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・米田・三浦慎悟: 日本の哺乳類 (改訂版), 146頁. 東海大学出版会.
- 川口敏・江木寿男 (2007) 岡山県南西部において交通事故死した哺乳類. 香川生物, 34: 79-82.
- Linscombe, G., N. Kinler, and V. Wright. 1981. Nutria population density and vegetative changes in brackish marsh in coastal Louisiana, In J. A. Chapman and D. Pursley, eds. Proceedings of the Worldwide Forbearer Conference, 1: 129-141. (Woods et al., 1992による)
- 三島康七. 1942. 淡水獣ヌートリアの養殖. 育成社弘道閣, 東京.
- 三浦慎悟. 1976. 分布から見たヌートリアの帰化・定着, 岡山県の場合. 哺乳動物学雑誌, 6: 231-237.
- 森井隆三. 2007. 香川県の哺乳類. 香川の生物 (香川県高等学校生地部会): 71-78.
- 日本海新聞「ヌートリア市街地出没, 鳥取・袋川で捕獲」ホームページ.  
<http://www.nnn.co.jp/news/080116/20080116007.html>
- 岡山県環境白書 (平成9~18年度) ホームページ.  
<http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/kansei/whitepaper/index.html>
- 山陰中央新報「山陰の野生動物8ヌートリア」ホームページ.  
<http://www.sanin-chuo.co.jp/shashin/modules/news/article.php?storyid=100250066>
- 週間散歩の途中: ヌートリアものがたり (越えた県境, すみか追われ拡散傾向) ホームページ.  
<http://diary.jp.aol.com/c3qmq2q7rsu/30.html>
- 曾根啓子・子安和弘・小林秀司・田中慎・織田統一. 2006. 野生化ヌートリア (*Myocaster coypus*) による農業被害—愛知県を中心—. 哺乳類科学, 46: 151-159.
- Woods, C. A., L. Contreras, G. Willner-Chapman, H. P. Whidden. 1992. *Myocaster coypus*. Mammalian Species, 398: 1-8.
- (財) ホシザキグリーン財団. 2006. 出雲市平田地域のため池生物調査 (1) 成果の概要. ホシザキグリーン財団研究報告, 9: 1-12.